優秀賞

心を清める

横浜市立小田中学校二年（神奈川県）
大塚　菜々陽

私は最悪なお点前をしている。この事に気づけたのは、つい最近のことだ。私は茶道部の中で一番お点前が覚えられていないし、一番ぎこちない。けれど、そういう意味ではなく、それとは違う点でそう思うのだ。

私が部活に入ったきっかけ―それは正直に言ってしまうと、「楽」だったから。もちろん、茶道の優雅な手さばきだったり、上品な佇まいには感動した。しかしあくまで入部の理由は「習い事との両立のため、楽な部活に入りたかった」からであった。

初めのうちは、習い事の経験が生き姿勢の良さをほめられ、ちやほやされるのが大好きな私にとってはとても嬉しくて、茶道部は楽しいなと思えた。

だが、茶道に対して軽い気持ちで入部した私は、部活動に真剣に取り組まず部活中にも習い事のことを考えていたので、そのうちまともに部活に行かなくなった。退部することも考えていた。今、そのときの事を振り返ってみると、盲目だったなと思う。習い事のことしか見えていなくて、それ以外のことに全く目を向けられていなかった。

それ程、全てを習い事にそそいでいた私だった。

それなのにケガをした。そして習い事をあきらめた。にげたようで悔しい気持ちもあった。だけど、そのおかげで目の前の岩がスッと消えて、視界がひらけた。今まで見落としていたことも見えるようになった。

私はそのときに初めて、茶道を素直に受け入れ、心の底から茶道と向き合い見つめた。そして思った。なんて美しいのだろうと。点前はもちろん、歩く時の畳をこする音まで、空間の何もかも美しく心地良かった。そして何より、部員全員の心がすきとおっているように見え、とても美しかった。

それから私は、前よりもしっかりと部活に取り組むようになった。休んだ分の遅れを取り戻すよう、他の人の点前をじっくりと見て分からない所は質問もした。そして少しずつできることが増え、どんどんどんどん茶道を好きになっていった。

少しずつ点前が出来るようになると、今度は別の意味で良くないお点前をするようになっていた。これは「最悪」なお点前―「おもてなしの心」のないお点前だった。点前の上達が嬉しかった私は「たくさんほめられたい」「誰より

も上手になりたい」という気持ちが大きくなりすぎて、それを認めてほめてもらう事を考えていた。お客様のことなど考えず、自分のことばかり考えて点てたお茶を出す、こんな点前は美しくもなんともない。これは最悪のお点前だった。

では、最高のお点前・美しいお点前とは何か。それは「相手を敬う気持ち、おもてなしの心」を一番大切にしたお点前である、と私は思う。おいしいお茶を飲んでもらいたい、少しでも幸せな一時を過ごしてもらいたいという、相手を思いやる美しい心は、美しいお点前を生み出すのだ。そして美しい心をもってつくり出されたお点前は、その空間をも美しく彩る。それが最高のお点前だと思うし最幸のお点前だと思う。

なつめを清める。茶しゃくを清める。茶わんを清める。この前にもう一つ大切なものを清めよう—心を清める。深呼吸をして、心を落ち着かせる。ほのかに香るいぐさと今日のお花の香り。そして心を思いやりで満たす。心を清めたら、思いやりを届けにいこう。最高で最幸なあたたかい空間を届けにいこう。

そんなお点前がいつかできるようになりたい。